焼岳の火山活動解説資料（平成30年７月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

2017年８月上旬に、規模は小さいながらも浅部を震源とする低周波地震とともに噴気が観測されました。その後、低周波地震は観測されていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２－①、図４）

噴気活動に特段の変化はありません。

北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約４km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね80m以下で経過しています。同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね60m以下で経過しています。なお、黒谷火口では噴気を観測していません。

・地震や微動の発生状況（図２－②、図３）

１日から４日頃にかけて、山頂の北東約３km 付近を震源とする地震がまとまって発生しました。聞き取り調査によると、上高地で、３日15時02分頃の地震により上高地で揺れを感じた模様です。この付近では、時折、構造性の地震がまとまって発生しており、今回の活動も同様のものと思われます。山頂付近の地震活動は低調に経過しており、火山活動に高まりは認められません。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図２－③～⑤、図４）

GNSS[1)] 連続観測による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成30年８月分）は平成30年９月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2万５千分１地形図』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

図１　焼岳　山頂部及び南西斜面の状況
（上左図：７月９日 焼岳北監視カメラ、上右図：７月 19 日 焼岳東監視カメラ、
下図：７月 28 日 焼岳南西斜面監視カメラ）

【地震の計数基準の変遷】開　始　2010 年８月　２日～2010 年９月 21 日　中尾振幅 0.5μm/s 以上、S－P２秒以内
変更①　2010 年９月 22 日～2011 年３月 10 日　中尾振幅 0.5μm/s 以上、S－P１秒以内
変更②　2011 年３月 11 日～2013 年９月 30 日　中尾振幅 3.0μm/s 以上、S－P１秒以内
変更③　2013 年 10 月１日～　中尾振幅 2.0μm/s 以上、S－P１秒以内

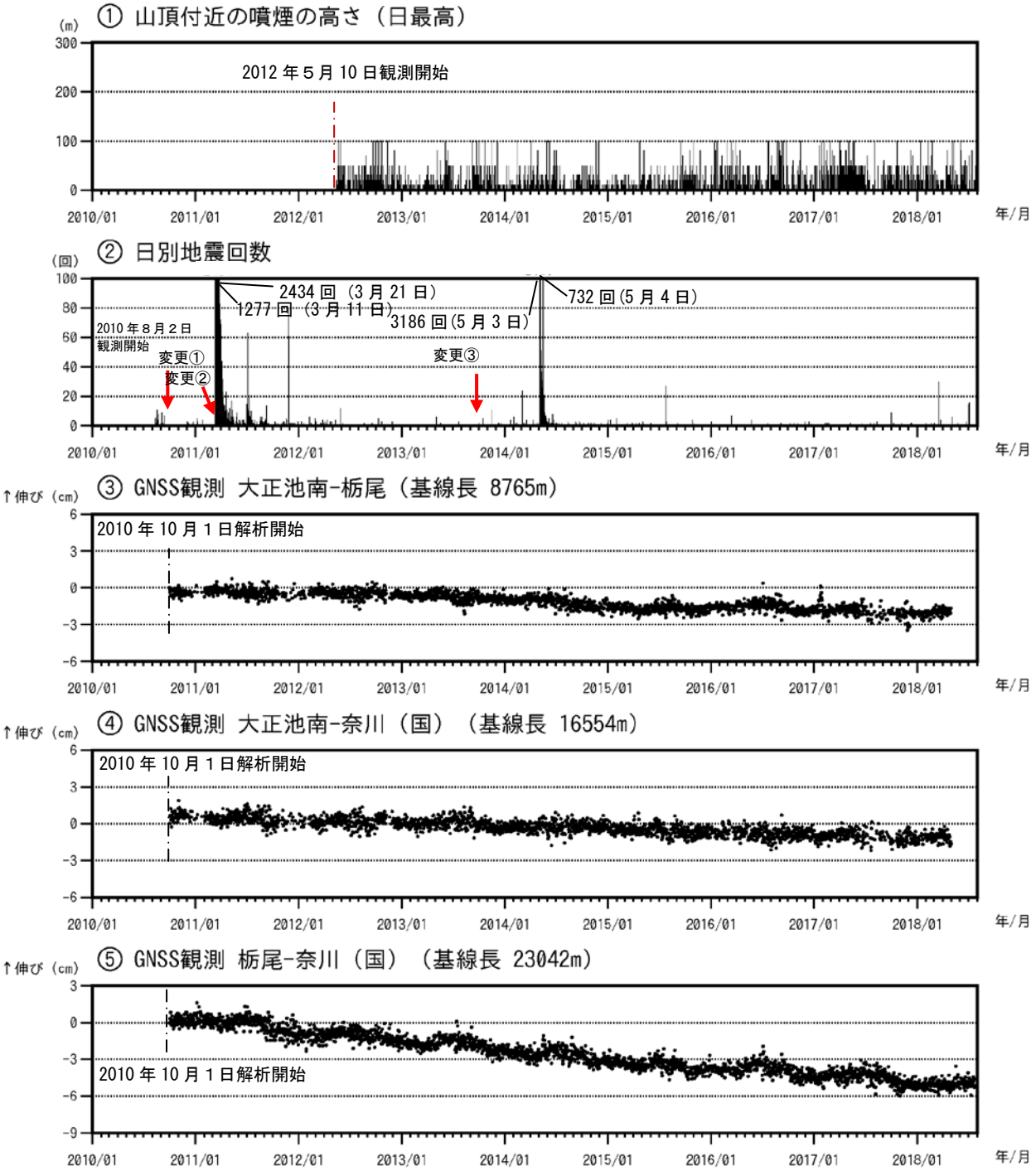

図２　焼岳　火山活動経過図（2010年８月２日～2018年７月31日）

③～⑤ GNSS 連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院
図４の GNSS 基線③～⑤に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。
・GNSS 観測の大正池南観測点は４月 30 日から障害になっています。

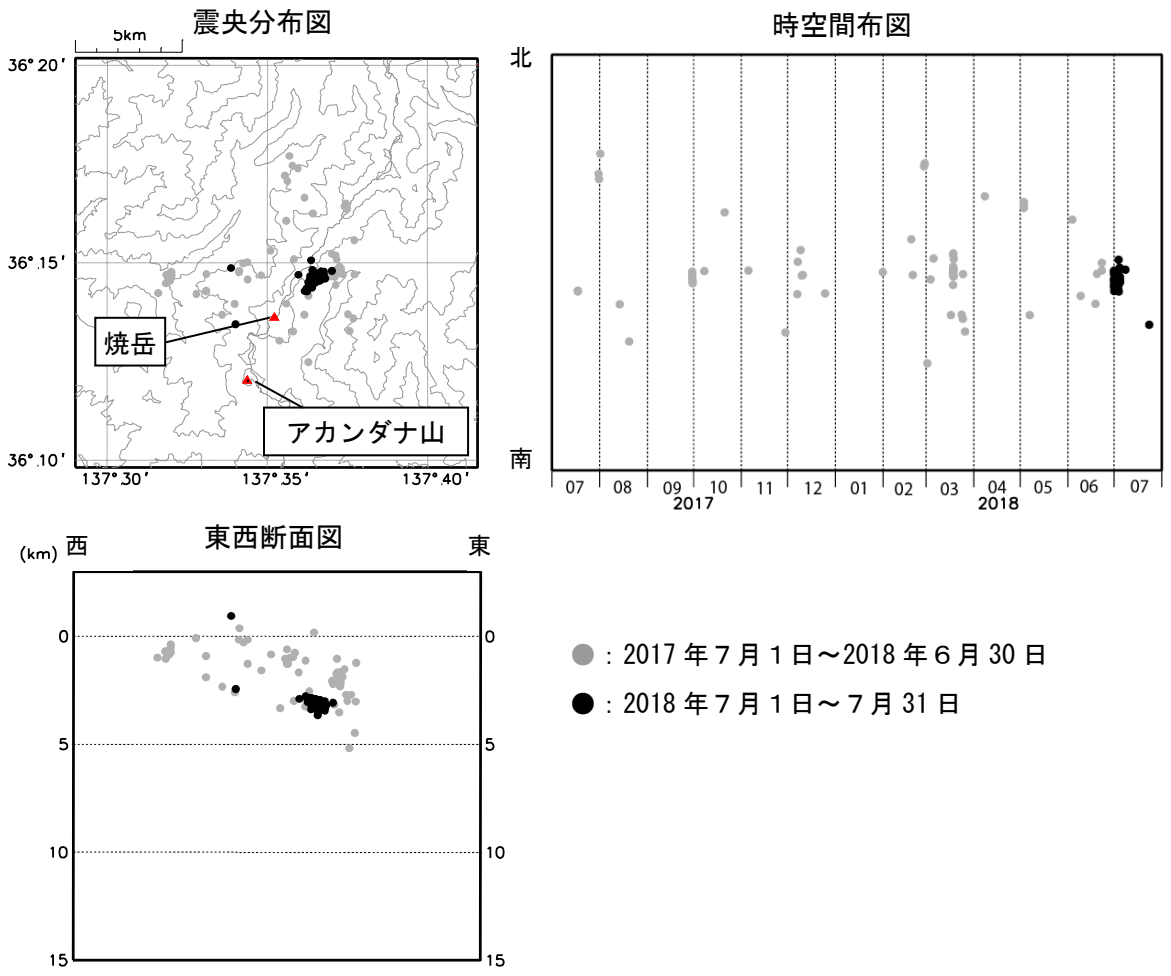

図３　焼岳　震源分布図（2017 年７月１日～2018 年７月 31 日）

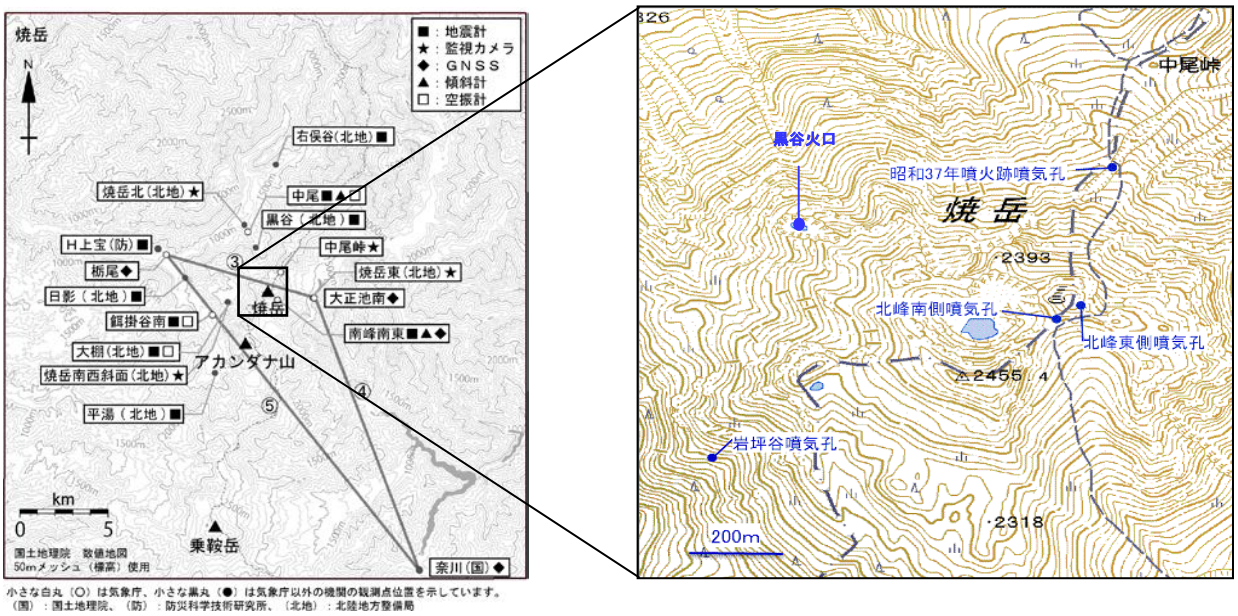

図４　焼岳　観測点配置及び噴気孔位置

GNSS 基線③～⑤は図２の③～⑤に対応しています。